

編集後記

ご記憶にある読者も多いかと思うが、本号の特集に寄稿して下さった秋山豊寛氏は、日本人として初めて宇宙飛行をされた方である。当時TBSのジャーナリストであった秋山氏は、1990年にソ連船ソユーズに搭乗して宇宙ステーションミールに向かい、そこから「宇宙特派員」として宇宙生活をレポートした。つまり日本人が宇宙人の仲間入りをしてから四半世紀がたつ、ということである。

わたし自身、宇宙への思いをさらに長いこと秘めてきた。小学校4年生のときだったか。当時アメリカに住んでおり、フロリダのケネディー宇宙センターに連れて行ってもらったことがある。NASAの有人ロケット発射場と管制施設があるところである。実物のロケットを間近に見て圧倒されて以来、「大きくなったら宇宙飛行士になる」夢を抱いてきた。体力的に自分には無理そうであるとわかってからも、宇宙に行く夢は捨てていない。宇宙観光が可能になる時代もそう遠くないようである。死ぬまでに一度は地球外に出てみたい。それが無理なら、宇宙葬にしてもらってもいい。それもダメなら、ガーナの棺桶屋さんに宇宙船の形のお棺を作ってもらおうか……。

(山中由里子)

2015年1月号特集の内容に誤りがありました。下記の通り訂正いたします。

p8「今年はヤギ年」の1段目、前から1行目
 誤) しかし中国でもベトナムでも「卯」はウサギではなく、ネコだ。
 正) しかしベトナムでは「卯」はウサギではなく、ネコだ。

●表紙: 宇宙遊泳をする飛行士 (提供・NASA)

次号の予告

特集

益虫 害虫

※みんなぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

**みんなぱくをもっと楽しみたい
 人のために—会員制度のご案内**

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引に比べ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
 (電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

月刊みんなぱく 2015年2月号

第39巻第2号通巻第449号 2015年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
 編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 河合洋尚
 庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三

編集アドバイザー 山内直樹
 デザイン 宮谷一 長岡綾子
 制作・協力 一般財団法人千里文化財団
 印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
 *本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>